

科学、技術上の知見を共有する組織としての学界、工業会。私的な集まりから始まるものもあれば、産業上の要請からトップダウンで始まるものもあるでしょうが、普通は国内の小さい組織から徐々に会員を増やし成長するものでしょう。一方計量学上の合意形成はどうしても国際的な連携が必要となるので、メートル条約、[地域計量組織](#)などで関係者が知見を共有しているのは既報のとおりです。このような多くの専門家が活動する各国の組織が連携すれば、科学技術の発展をより促進し、当該技術の社会的存在感も高まるでしょう。

計測の世界ではこのような学術組織として、国際計測連合(IMEKO)が1958年に設立されています。略号のIMEKOはドイツ語表記のInternationale Messtechnische Konföderationからとられています。会員は各国の計量学・計測技術の学界であり、現在42機関。日本からは公益社団法人計測自動制御学会が会員となっています。

IMEKOの名の下、現在23の技術委員会が測定対象や応用に応じた国際会議を開く他、3年に一回全ての技術分野にわたる世界大会を開催し、毎回1000名程度が参加する、世界最大規模の計測に関わる国際会議となっています。研究発表を行いたい関係者は、原則として各国の会員組織に所属した上でIMEKOの行事に参加することが出来ます。

IMEKOの表記がドイツ語であることが示すとおり、欧州主体の国際組織としてスタートしています(恒久事務局はハンガリー・ブダペストにおかれる)。設立時期からいって、東西冷戦体制下で学術上の交流を保つ目的もあったと思われます。その後IMEKOは欧州だけでなく日本を含めた世界の学術機関を結ぶ学術連合になったわけですが、前報で紹介した米国発祥の[NCSLI](#)など、独自に国際化を進める組織もあります。IMEKOはあくまで国内団体を結ぶ組織(学術連合)なので、国内機関とは相補的・補完的、Win・Winの関係にあるべきですが。

さてIMEKOは3年毎に世界大会を開催している、と述べましたが、2021年に開催される世界大会は横浜で開催されることが決定しています。世界大会の開催地決定までは、候補地が立候補、開催趣旨や運営方針をプレゼンテーションし、最終的に理事会での投票というプロセスが踏まれます。開催地関係者と会員機関が一体となった誘致活動が必要となります。日本開催にあたっては開催地自治体(横浜市)および自治体関係機関、日本政府観光局(JNTO)などとの連携の元、日本の会員機関である計測自動制御学会関係者の悲願が実ったこととなります。開催趣旨に関しては若い研究者の育成など今後のビジョン、運営方針については横浜という国際都市において、ホテル、ショッピング等の施設がコンパクトにまとまっていること、交通アクセスの利便性・安全性などが評価されたとのこと。1999年に大阪で開催されて以来、22年ぶりの日本での開催となります。ちなみにこれまでの世界大会は下記の都市で開催されています。

開催実績

- 2018年：第22回 ベルファスト（イギリス）予定
- 2015年：第21回 プラハ（チェコ共和国）
- 2012年：第20回 釜山（韓国）
- 2009年：第19回 リスボン（ポルトガル）
- 2006年：第18回 リオデジャネイロ（ブラジル）
- 2003年：第17回 ドブロブニク（クロアチア）

そして大会の概要は下記のとおりです。

◇名称：国際計測連合 第23回世界大会

(The XXIII World Congress of the International Measurement Confederation [XXIII IMEKO World Congress])

◇開催時期：2021年8月30日～9月3日

◇会場：パシフィコ横浜

開催概要を理事会に報告した際のキービジュアル



東京オリンピックが開催された翌年、世界の計測科学関係者が横浜に集まります。今から準備を進め、実りある大会にしたいものです。

文責：臼田孝 本文章は個人の見解であり筆者が属する如何なる組織を代弁するものでもありません。引用明記のない写真・図版は筆者または産業技術総合研究所に帰属します。